カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

聖母月 教皇と共に 世界をめぐるロザリオの祈り

パンデミック終息を願って

教皇フランシスコは、1年以上にわたり世界全体を苦しめている新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの終息を願って、5月の聖母月にロザリオの祈りを唱えるよう全世界に呼び掛けた（4月21日教皇庁新福音化推進評議会）。

5月1日から30日まで毎日、世界30カ所の聖母巡礼地などで代わる代わるロザリオの祈りがささげられ、31日はバチカンを会場に締めくくられる。祈りは各国現地時間の午後6時からライブ配信され、バチカンの公式メディアで紹介。長崎教区の浦上司教座聖堂被爆マリア小聖堂も30カ所のうちの一つに選ばれ、5月21日（金）午後6時から「すべての社会福祉従事者のため」という意向でロザリオの祈り（苦しみの神秘）が唱えられた。30カ所の聖堂は次の通り。5月1日以下、日にちを数字で表す。

①聖ペトロ大聖堂－バチカン／ウォルシンガムの聖母－イギリス ②救い主イエスと母マリア－ナイジェリア ③チェストホバの聖母－ポーランド ④お告げの大聖堂－イスラエル・ナザレ ⑤ロザリオのおとめ聖マリア－韓国・南陽 ⑥アパレシーダの聖母－ブラジル ⑦平和と良い旅の聖母－アルゼンチン ⑧ルハンの聖母－フィリピン ⑨ロレトの聖なる家－イタリア ⑩ノックの聖母－アイルランド ⑪貧者のおとめ聖マリア－ベルギー ⑫アフリカの聖母－アルジェリア ⑬ロザリオのおとめ聖マリア－ポルトガル・ファチマ ⑭救いの聖母－インド ⑮平和の女王聖マリア－ボスニア・メジュゴリエ ⑯聖マリア大聖堂－オーストラリア・シドニー ⑰無原罪の聖母巡礼大聖堂－アメリカ・ワシントン ⑱ルルドの聖母－フランス・ルルド ⑲おとめ聖マリアの家－トルコ ⑳コブレの愛の聖母－キューバ ㉑長崎の無原罪の聖母（日本、浦上司教座聖堂被爆マリア小聖堂）㉒モンセラートの聖母－スペイン ㉓岬の聖母－ダナン ㉔ルルドの聖母－ミャンマー ㉕タ・ピーヌの巡礼所－マルタ ㉖グアダルーペの聖母－メキシコ ㉗神の母－ウクライナ ㉘アルトエッティング黒い聖母－ドイツ ㉙レバノンの聖母－レバノン ㉚ポンペイのロザリオのおとめ聖マリア－イタリア ㉛バチカン庭園内のルルド－バチカン

浦上被爆マリア小聖堂で

5月21日（金）新型コロナウイルス感染防止の対応策を取った上で、浦上司教座聖堂被爆マリア小聖堂と大聖堂に信者らが集まった。小聖堂には、高見三明大司教、中村倫明司教、司祭、修道者、代表の信徒らが着席。午後6時、高見大司教の司式により、小聖堂の祭壇奥に安置された被爆マリア像に向かって聖母の取り次ぎを願いながら、ロザリオの祈りが始まった。

各黙想での祈りは、家族、神学生・志願生、修道者、青年、そして再び家族が唱え、この様子は全世界にライブ配信されるとともに大聖堂に設置されたスクリーンに映し出され、先唱者に続き参加者皆が主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱を唱えた。シスターたちによる『サルヴェ・レジナ』の聖歌の後、中村司教の先唱で「聖マリアの連願」があり、約45分間、パンデミック終息を願って、教皇と共に世界をめぐるロザリオの祈りをささげた。

教皇さまの意向

・宣教
・日本

キリスト者の共同体に支えられて結婚の準備をすすめている若者たちのために祈ろう

高齢化していく日本の教会の中で、若者がキリストの呼びかけに応え、神の民に奉仕することができるように

カ障連の発足と長崎大会に向けて

障害者から私たちの信仰のあるべき姿を探し求めて！①

教区福音化推進部　紙﨑 新一

手遅れかも

「長崎教区に障害者の団体を作りたい」と言っても、多数の人が自分には関係がないと考えるでしょう。事実、長崎教区で社会問題は、信仰とあまり関係ないようです。でも、手遅れになりそうです。社会に変化が。社会が福音に近づいているからです。

「障害」とは、普通なら人の心身にあると考えます。それを克服しようと医療的なリハビリや手術などの施術を行います。社会問題に関わる人なら知っているでしょう。これを「個人（医療）モデル」から見た「障害」と言い、「障害」は社会にあると考え、障害者に合わせた社会の改善を行うことを「社会モデル」から見た「障害」と言うことを。

私たちの社会は、多数を占める人たちの事情に合わせて作られてきました。たとえば、少数の車椅子の人は、社会に段差や階段などの「障害」が多く外出が困難でした。社会全体は長い間、「個人モデル」で「障害」を見て来たわけです。

ところが、2006年に国際連合で採択された「障害者権利条約」で、「社会モデル」から見た「障害」の見方が示され、世界は「障害」の見方を大きく変えることとなりました。

日本でも2011年に改正された「障害者基本法」でこの見方が採用され、「障害」の概念は「個人モデル」から「社会モデル」へと視点が移されました。さらに、16年に施行された「障害者差別解消法」は、その目的を「障害の有り無しによって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害者差別を解消すること」と定めました。社会は、ハラスメント禁止、障害者も子どもも*LGBTQも人権ある一人の人の個性と捉え、共に生きる社会の実現を目指すようになりました。

「社会モデル」への視点の移行は、単に左から右へのモデルチェンジではなく、多数者が基準の社会から少数者に視点を移し各々の必要に応じた社会への変革であり、多少の区別なくすべての人の存在そのものを肯定する社会への変革でした。

この変革は、2千年前にガリラヤで説いたイエスの福音ととてもつながっています。たとえば、「善いサマリア人のたとえ」（ルカ10・25－37）は、真の救済が、自分の救済から助けを必要とする人へ視点を移し、その必要に応える生き方であることを示し、下層民とされる一人ひとりの心と体を癒やし、彼らを一人の存在として肯定し続けました（福音書全般）。

しかし、今を生きるキリスト信者は、イエスの福音を理解し受け止め実行しているでしょうか。教会なのに人権意識が低くハラスメントが起きやすいのはなぜでしょうか。「先にいる者が後になる」（マタイ19・30、20・16）現象がすでに始まっています。

ところで、「カトリック障害者連絡協議会（通称・カ障連）」をご存じでしょうか。残念なことに長崎教区を含む九州の教区にはまだカ障連がありません。近い将来、長崎教区にカ障連を発足し九州初の全国大会を開こうとしています。長崎教区にカ障連がなかったことからも推測されるものがありますが、これからシリーズでこの問題を掘り下げ、そこから見えてくるものを通して、私たちの信仰のあるべき姿を見つめてみたいと思います。

*性的少数者の方を表す総称の一つ。

参加できない人を思いながら

井持浦ルルド祭

5月9日（日）午前9時から、井持浦ルルド祭が井持浦教会で行われた。今年で28回目の開催となる。通常は、下五島地区の各教会から集まり盛大に祝われるが、今年は新型コロナウイルス感染対策のため、井持浦小教区のみでの開催となり40人余が集まった。また、昨年は中止となったので、2年ぶりの開催となる。

ロザリオの祈りの後、ミサがささげられた。参加者からは、皆で集まることができなかったことを残念がりながらも、「制限がかかった分、参加できない人のことをいつもより思って祈ることができた」「井持浦だけのルルド祭でもまた違う味わいがあってよかった。先祖たちが大事にしてきたこの場所を守っていかなければとの思いを新たにした」との声が聞かれた。初参加となった人は「野外ミサにあずかれてうれしい。ルルドのマリア様は私の中でも特別」と語っていた。

ほしかげ

聖母月は親子でロザリオの祈りを唱えた。続けて祈祷書の中から聖母マリアへの祈りとして「元后、慈悲深き御母」を唱える。子どもたちは大したもので、「元后、慈悲深き御母、われらの生命、慰、および希望なるマリア、われら遂摘の身なるエワの子なれば」と舌を噛むことなくすらすら唱える▲すべての漢字にふりがなが振ってあり、十分読むことは可能だが、最近強い違和感を覚える。本当に、このままで良いのだろうか。文語体の祈りは、確かに格調高く、小生も幼い頃いくつも丸暗記した。いくつかは残念ながら完全に唱えることができないが、まだほとんどの祈りを祈祷書なしに唱えることができる。しかしそれでも先の疑念は払拭できない▲祈祷書の祈りが「幼い頃から慣れ親しんだ人しか唱えることのできない古文書」になれば、祈祷書の祈りに馴染めない成人洗礼者との「格差」の原因を作ることになるのではないか。やっとの思いで洗礼までたどり着いた成人洗礼者が、嫁いだ先で「うちの嫁は祈祷書の祈りも唱えることができない」と言われるのを聞くのは耐えられない▲今年の聖香油ミサで、大司教様は「私訳」と断ってではあったが、リジューの聖テレジアによる「司祭のための祈り」を公表してくださった。まことに画期的であった。多くの人に祈祷書を活用してもらえるよう、踏み込んだ改訂をお願いしたい。（輝）

「…しかし 長崎の教会は死ぬことはありませんでした」　ヨハネ・パウロ2世（1981年）

わたしたちは何を目指すのか⑥

存在の肯定の基礎としての信仰

大分教区 高鍋教会主任　平田 直

大きな紙面をいただいて、びっくり恐縮しております。今回こんなことになったのは、かつて長崎教区の神学生でありながら、大して恩返しせぬままだったというのが災いしているのでしょうか。ご無沙汰しております。片田舎から失礼いたします。

最近、「何のために信じるのか」というテーマで考えることがしばしばありました。今、私の中での結論は、「信仰は、存在の肯定の基礎なんだ」ということです。

幼稚園の現場で「何のために信じるのか」を思い巡らす中で

現在、宮崎県の高鍋という小さな町で、教会の主任司祭と、隣接する幼稚園の副園長をさせていただいております。信者さんが少なく、高齢化していますので、教会の方は割と開店休業（コロナの影響というわけでもなく…）的なところがありますが、幼稚園の方は毎日、子どもたちの元気な声であふれています。週の初めの全学年お集まりの時間に、3分程度の「神様のお話」コーナーを担当しております。子どもたちは実に素直で、こちらが神様のことを話せばすんなり受け入れますし、また教えられたお祈りも嫌がらずに力いっぱい唱えてくれます。「どうしてそんなに簡単に神様を信じ切れるのだろうか…」と、神父の私でも感心してしまうのですが、よくよく考えたら子どもにとって信じることは当たり前なわけです。今日もきっと命がある、今日もきっとパパとママがいてくれる、今日もきっと安心して過ごせる家がある、今日もきっと幼稚園でお友達と仲良く過ごせる、今日もきっと周りの大人たちは自分を助けてくれる、そして明日もきっとそれはおんなじ……毎日そう信じ切って疑わない。そうじゃないと困る、だってまだ小さくて力も弱くて、誰かが守ってくれなければすぐに死んでしまうんだもの…そのように、子どもはきっと無自覚的に理解しているのでしょう。そしてそれゆえに、その期待を裏切られた時の傷の深さは一生ものの十字架となっていくのだと思います。

かつて大神学校を休学中、いろんな家庭内虐待を受けてきた子どもたちの施設で働いたことがあります。日ごろ親から引き離されている子どもたちは基本的に寂しがりで、われ先にと新しい職員の私に甘えてきましたが、いざ言うことを聞けなくて注意しますと、途端に不機嫌になり、「触んな！」「帰れ！」「死ね！」と大人顔負けの激しさで拒絶され、慣れないうちはおろおろしておりました。おそらく、これまで信じていた大人たちから散々裏切られてきた彼らの心の傷、怒りの蓄積、そういったパンドラの箱のようなものを、不用意に開けてしまっていたのだろうと、今では回想します。

子どもにとって、信じることは毎日当たり前のこと。そして信じているから、あの心洗われるような屈託のない笑顔が生まれるのでしょう。この笑顔のまま…とはいかなくても（長い人生ですからね）、自分を信じ続けて大きくなってほしいと願います。今年の2月、新しくお子様たちを園に預けてくださる予定のご両親との事前面接の中で、「神父様からも何か」と園長から一言喋るよう促されて、焦りながらもこんなふうに話しました。「…神様を信じるということは、簡単に言えば、この世界が良いものだと信じ、私自身もまた良い存在だと信じ、未来もまた神様が良い方向へ導いてくれると信じること。つまり最終的には『自分自身を肯定すること』（いわゆる「自己肯定感」）につながっていきます。『信じる』とはこんなふうに、人が前向きに人生を切り開いていくための基礎であり、その基礎作りをお手伝いさせていただきたい。そこで、保護者の皆様にはぜひおうちで、神様の代理としてお子様に接してほしい、その存在を毎日全肯定してほしいと思います。その延長線上に子どもは神様のイメージを築いていきますから…」うまく言い当てているでしょうか。

人生グラフと、それに同伴してくださる主を黙想しながら

また去年までは別の教会で堅信準備クラスを担当させていただきましたが、その中で参加者たちと一緒に『人生グラフ』なるものを書いてみたことがありました。人生の浮き沈みを曲線グラフで表現しながら各自これまでの歩みを回顧するという作業です。どの子もだいたい小学生くらいまでは調子よく高い線を書きますが、思春期に入るとやはり、ところどころ線が下がっていくものです。私自身のグラフも似たようなもので、とくに中学1年からの小神学校時代から大神学校1年目くらいまではひたすら下がりっぱなし。「せっかく神学校に入ったのに、かえって神様が見えなくなった時期だった。世間でも、学校でも、神学校の中でも、いろんな悪が目に付いて、さらには自分の中にもたくさんの汚いものが渦巻いて、嫌で嫌でたまらなかった。神なんて絵に描いた餅、現実には何の力もない、嘘だとしか思えなかった…」そんなふうに自己紹介がてら解説したところ、案外子どもたちも真面目に聞いてくれるものですね。

その日の授業の最後に紹介したのが、『砂の上の足跡』という詩でした。ある人が夢の中で主と浜辺を散歩していた。見上げた空にはその人のこれまでの人生が映し出され、どの光景にも必ず、その人と主、二人分の足跡が刻まれていた……という有名な詩です。この詩のクライマックスにあたる「人生で一番つらかった時、歩けないその人を主は背負って代わりに歩いた」という結論部を引き合いに出しながら、きっとイエス様も私たちの人生グラフの浮き沈みに同伴してくださる。たとえ暗く沈んだ時期、神様なんて信じられないどん底の日々を過ごすことがあっても、イエス様はそのどん底にまで同伴して、一緒に這い上がってくださる。だからこの人生グラフの浮き沈みの曲線に、ぴったり同伴するイエス様の曲線を書き足して、神様のことをイメージしてみようと語ってみました。反応はそんなに悪くなかったと思います。私たちの人生の浮き沈みにぴったりと同伴しながら、調子のいい時も悪い時も全部含めた私を丸ごと肯定してくれる方、その方を私たちは信じていて、その方をこそ宣べ伝えたいのだと、改めて黙想した瞬間でした。

司祭、それは、存在の肯定の目に見える応援団

昨年2020年は、大分県国東半島出身の福者ペトロ・カスイ岐部神父の司祭叙階400周年記念の年でありました。13歳で司祭を目指して有馬のセミナリオに入り、イエズス会入会の誓願文を何年も懐に温め、マカオの神学校で日本人が神父になれないと分かったら今度は直接ローマを目指す…というその驚くべき行動力の根っこには、「日本の信者を励ましたい」という燃える思いと、司祭になりたい自分を全肯定し続ける強靭な信仰があったのだと思います。そしてその年の末、大分教区は惜しくも前教区長・浜口末男司教様を天国に見送ることになりました。私にとって司教様は何よりもまず、小神学生時代の校長であり、厳しくも温かい存在でありましたし、教区の皆さんからも口々に「とても庶民的で親しみやすい方だった。飾らないジャージ姿で、よく飲み、またよく話を聞いてくださった」と、今なおそのお人柄をしのぶ声が聞かれます。出会う人の全存在を肯定し、交わり、耳を傾け続けた司教様の根っこにもまた、同じ信仰がありました。長崎の皆様、素晴らしい司牧者をありがとうございました。

偉大な二人の先人にどこまで倣えるか分かりませんが、私も司祭の端くれ。自分自身と、出会う人を、信仰をもって肯定し続けたいと願います。今日もまた園庭では、「しーんぷーさまー！」と黄色い声が、「おはよう」「かわいい」「大好き」「上手になったよ」と言われたくて、つまり存在の全肯定を求めて、こんな白髪の混じってきたおじさん相手でも笑顔いっぱいで突進してきます。負けない笑顔で、その思いをしっかり受け止め、彼らの未来を応援することができますように。きっとミサだって同じですよ。山あり谷ありの日々を、この一週間もまた肯定してもらおうと、同伴してもらおうと、私たちは主をいただきに集まるのですから。フレー、フレー、なーがさき、皆様も主から全肯定されていますよ！ ちょうど九州の反対側あたりから、ささやかなエールを送らせてください。

教皇フランシスコ訪日公式記録集

2021年6月5日発売

2019年11月に実現した教皇フランシスコの訪日。興奮と感動と喜びに包まれた4日間を詳細に伝える唯一の公式記録集。貴重な写真500点以上とともに、講話のテキストもすべて収録。また、訪日決定に至るまでの経過や、各行事、各典礼の規模や人員などのデータも詳細に伝える。

著者　カトリック中央協議会出版部（編）
発行日　2021年6月10日
A4変型判上製・280頁
オールカラー
本体価格　4,500円（税込4,950円）
ISBN 978-4-87750-230-0

詳細は『記録集』特設サイトをご確認ください。
https://www.cbcj.info/popeinjapan2019book/

カリス通信 6月号

CALIS Catholic Life Service

海外旅行傷害保険のご案内

留学、出張、視察、会議出席、巡礼などで海外へ行かれる場合、日本国内とは異なるリスクマネジメントが必要です。「日本で発生する事故は海外でも発生する」ことに加え、「日本ではあまり発生しない事故が海外で発生する」と言われております。また、海外では驚くほど医療費が高い国もあり、救急車でさえ無料とは限りません。

カリスでは、海外渡航されるカトリックに関係する皆様を対象に、「海外旅行保険」のご案内とご加入をお勧めしております。

＜主な補償について＞

①傷害・疾病死亡補償
海外でケガや病気が原因で亡くなられた場合に補償します。

②治療・救援費用補償
海外でケガや病気が原因で治療が必要になった場合の治療費を補償します。また、ケガや病気が原因で継続して3日以上入院し、家族に駆けつけてもらうことになった場合の交通費や宿泊費等も補償します。

③賠償責任補償
他人にケガをさせてしまった場合、他人の物を壊してしまった場合に補償します。

④携行品損害補償
海外で盗難にあい盗まれたものが出てこなかった、スマートフォンを落として壊してしまった場合等に補償します。

まずは、お見積りに必要な項目として、①出国日②帰国日③渡航目的をお伺いした上で、お客様のご希望の補償内容、ご予算に合わせてお見積りいたします。

海外へ渡航する場合は、事前に、航空機の手配や宿泊先など、様々な準備が必要ですが、海外旅行保険につきましても、忘れず、カリスまでご連絡いただければ、スピーディーかつ丁寧なご提案を行いますのでご連絡をお待ちしております。

カトリック共済システム 有限会社カリス　〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム 検索　19-TC03966
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

長崎大司教区現勢統計表（2020/12/31 現在）

地域……	長崎県	小教区……	72		信徒数	司祭・他	総数
面積……	4,131㎢	準小教区……	1	2018年	60,070人	863人	60,933人
県人口……	1,308,277人	巡回教会……	57	2019年	58,802人	840人	59,642人
カトリック……	59,161人	集会所……	2	2020年	58,343人	818人	59,161人

小教区	信徒数			世帯数	洗礼		ミサ参加者			結婚				死亡
	男	女	合計		子ども	成人	主日	復活	降誕	信徒同士	混宗婚(1)	異宗婚(2)	他宗同士	
浦上	2,815	3,573	6,388	1,346	20	7	700	0	1,000	1	0	7	0	80
稲佐	364	424	788	267	3	1	150	0	250	1	0	0	0	10
城山	1,215	1,489	2,704	687	14	0	400	0	750	0	0	1	0	34
西町	1,002	1,223	2,225	746	6	1	500	0	800	0	0	1	0	27
本原	910	1,090	2,000	456	5	5	350	0	500	0	0	2	0	19
三ツ山	125	187	312	75	0	1	110	0	0	0	0	2	0	5
中町	558	739	1,297	473	6	4	250	0	300	0	0	3	3	20
神ノ島	180	250	430	164	2	0	140	0	250	0	0	0	0	11
木鉢	450	567	1,017	308	4	3	200	0	400	1	0	2	0	13
飽の浦	567	683	1,250	432	1	0	200	0	250	0	0	0	0	28
本河内	55	84	139	56	0	1	30	0	70	0	0	1	0	1
八幡町	148	221	369	109	1	0	40	0	50	0	0	0	0	4
愛宕	253	490	743	214	0	0	100	0	100	0	0	0	0	7
大浦	336	431	767	334	0	2	170	0	250	0	0	2	5	10
大山	78	140	218	86	3	0	85	0	100	0	0	1	0	7
小ヶ倉	315	427	742	249	1	0	170	0	250	0	0	1	0	3
深堀	523	638	1,161	290	1	2	150	0	50	0	0	2	0	16
香焼	198	240	438	167	0	0	130	0	230	0	0	0	0	3
馬込	125	207	332	190	0	0	200	0	220	0	0	0	0	6
滑石	1,728	2,060	3,788	653	9	4	650	0	0	1	0	2	0	36
出津	250	322	572	196	1	0	160	0	200	0	0	1	0	18
黒崎	348	382	730	205	2	0	200	0	200	0	0	0	0	15
時津	458	533	991	284	2	0	170	0	150	0	0	0	0	6
長与	461	479	940	304	5	1	180	0	250	0	0	0	0	6
東長崎	635	813	1,448	390	5	0	150	0	240	0	0	2	0	6
植松	793	940	1,733	494	5	9	500	0	500	0	0	1	0	17
水主町	298	321	619	203	8	1	100	0	0	0	0	2	0	9
諫早	482	630	1,112	294	4	3	150	0	180	0	0	1	0	3
愛野	26	31	57	23	0	0	15	0	15	0	0	0	0	1
島原	55	75	130	65	2	2	40	0	60	0	0	0	0	2
湯江	72	183	255	66	1	0	40	0	100	0	0	0	0	6
相浦	470	574	1,044	470	2	1	300	0	0	1	0	2	0	23
三浦町	477	679	1,156	372	3	4	70	0	100	1	0	5	0	18
鹿子前	297	368	665	175	3	1	240	0	360	0	0	1	0	9
俵町	310	353	663	240	1	2	180	0	250	1	0	0	0	11
大野	373	429	802	269	0	0	160	0	160	0	0	0	0	11
浅子	350	389	739	240	4	3	40	0	150	0	0	1	0	11
黒島	179	212	391	149	0	0	100	0	0	0	0	0	0	14
太田尾	155	101	256	101	1	1	80	0	100	0	0	0	0	4
神崎	807	867	1,674	348	3	2	400	0	0	2	0	1	0	16
褥崎	392	362	754	205	2	0	200	0	300	0	0	1	0	6
大崎	281	366	647	150	16	3	350	0	0	2	0	4	0	1
天神	208	246	454	117	0	1	60	0	70	0	0	0	0	5
早岐	237	281	518	163	0	0	100	0	150	0	0	1	0	9
佐々	336	392	728	245	1	3	200	0	400	2	0	0	0	9
平戸	296	353	649	202	1	2	220	0	230	0	0	0	0	11
上神崎	218	224	442	160	3	0	180	0	250	0	0	0	0	10
宝亀	149	178	327	95	1	0	100	0	150	0	0	0	0	6
田平	303	361	664	211	2	0	250	0	300	0	0	2	0	14
紐差	473	603	1,076	262	8	3	250	0	350	0	0	1	0	8
西木場	251	296	547	187	5	0	130	0	200	0	0	1	0	11
平戸口	164	186	350	108	3	0	90	0	110	0	0	0	0	4
山田	113	120	233	70	0	0	100	0	100	0	0	0	0	3
青方	133	160	293	115	0	0	100	0	150	0	0	0	0	6
大曽	181	173	354	127	1	0	150	0	250	0	0	0	0	5
青砂ヶ浦	472	534	1,006	354	3	0	200	0	250	0	0	0	0	13
丸尾	194	195	389	161	0	0	180	0	230	0	0	0	0	5
仲知	65	79	144	105	0	1	80	0	60	0	0	0	0	6
曽根	205	220	425	162	0	0	100	0	100	0	0	0	0	4
鯛之浦	310	400	710	193	0	0	100	0	200	0	0	0	0	7
浜串	176	184	360	185	2	0	200	0	200	0	0	0	0	12
桐	313	300	613	200	0	1	200	0	250	1	0	0	0	10
真手ノ浦	203	153	356	134	2	0	80	0	120	0	0	0	0	4
土井ノ浦	105	138	243	109	0	0	100	0	70	0	0	0	0	4
福江	563	569	1,132	466	2	4	370	0	450	0	0	1	0	19
浜脇	35	36	71	25	0	0	35	0	50	0	0	0	0	0
浦頭	140	216	356	172	2	0	200	0	250	1	0	0	0	7
奈留	182	181	363	128	0	0	80	0	200	0	0	0	0	4
水ノ浦	231	261	492	167	0	0	210	0	325	0	0	1	0	9
三井楽	134	176	310	126	0	0	160	0	120	1	0	0	0	8
貝津	62	82	144	60	0	0	50	0	50	0	0	0	0	4
井持浦	59	49	108	44	0	0	40	0	80	0	0	0	0	2
総計	26,425	31,918	58,343	17,398	182	79	12,865	0	14,850	16	0	56	8	772

(1) 混宗婚とは、カトリック信者とカトリック以外のキリスト信者との結婚
(2) 異宗婚とは、カトリック信者と非キリスト者との結婚

ペトロ地主敏夫司教 帰天

（札幌教区名誉司教）

前札幌教区長の地主敏夫司教は腸ヘルニア治療のために入院していたが、その後肺炎となり、入院先の札幌厚生病院で5月4日逝去した。享年90。

1930年札幌市生まれ。34年北一条教会で受洗。60年3月20日北一条教会で司祭叙階。北二六条教会助任。61年司教館付司教秘書、教区事務局長。69年ローマ留学、78年円山教会主任、さゆり幼稚園園長。87年10月3日札幌教区長（司教）に任命、88年1月15日司教に叙階。2009年11月17日司教の辞任が受理される。21年3月19日から、治療のため入院していた。

生前、多くの役職を担い、主だったものとして司教協議会における教会行政法制委員長、典礼委員長、カトリック新聞やさまざまなところで各役職を歴任した。また、社会福祉法人雪の聖母園、医療法人天使病院の他、学校法人の幼稚園園長や理事を務めた。

葬儀ミサ・告別式は、同教区の勝谷太治司教の司式により5月8日午前10時から北一条教会で、新型コロナウイルスの影響下のため、司祭団、遺族のみが参列し執り行われた。

浦上四番崩れ『旅』長崎会議

コロナ禍で進まぬ作業

2023年の「浦上四番崩れによる『旅』からの帰還150周年記念」に向けて始まった調査活動と「巡礼冊子」の作成作業は、昨年から今年にかけて続いている新型コロナウイルスの影響もあり、停滞気味である。

ただ、広島・長崎は互いが受け持つ11カ所ずつの流配先の調査を続けており、年2回行われる「『旅』長崎・広島連絡会議」に備えている。

長崎の作業の中心となるのは、過去におこなった巡礼と数多くの書籍や記録として残されている資料を参考にしている。「旅の話」などに記載されている記録や、帰郷後、司祭やシスターになったという記事・記録を参考にし、長崎にふさわしいものとしたいと考えている。その他、22カ所の流配地の表現方法の統一も考えられたが、それぞれが違う場所であり、収容先による生活内容も違うとして、双方（広島・長崎）の思いが一致しない部分もあった。

4月18日浦上教会で行われた『旅』長崎会議

昨年予定されていた「『旅』広島会議」もコロナ禍で見送られたので、暮れに大司教館の会議室を借用し、岡山、福山の代表の方々とのウェブ会議を行い、先に挙げたような未解決であった問題点も解決している。

2021年はこれまで2月と4月に、4小教区の担当委員による『旅』長崎会議を開いている。特に4月18日の会議では、これまでに調べた流配地での記録を各委員がまとめており、それぞれのグループに分かれて記事の内容を検討し、さらに詰めの作業を行っている。

2023年までは、あと2年ほどの時間はあるが、この先「巡礼冊子」の内容のまとめ作業と広島教区との協働作業が続く。

『旅』長崎会議　委員一同
事務局長　深堀哲也
（浦上教会所属）

新刊良書

★教皇フランシスコ　使徒的勧告　愛するアマゾン

アマゾン周辺地域のための特別シノドス後の、「神の民と、善意あるすべての人」にあてられた使徒的勧告。

アマゾンの民族、文化、経済、自然に関する深刻な脅威を具体的に指摘した上で、回勅『ラウダート・シ』で繰り返された「あらゆるものはつながっている」というメッセージのもとに全人類が受け止めるべき喫緊の課題を示し、預言的役割としての教会の社会的参与の必要性を説く。また、文化の多様性の尊重を強く求め、地域の特殊性を包括したインカルチュレーションの実現を示唆する。

カトリック中央協議会、税別1000円。

〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

ミニ召命巡礼ウォーク

青年と高校生が参加

5月3～4日、長崎教区召命委員会（辻原達也委員長）は西彼杵郡時津町・長与町を中心に青年対象の召命巡礼ウォークを行った。コロナ禍のため教区全体には呼び掛けず、じかに声掛けできる数人だけの参加となり、青年・高校生6人、司祭4人のミニの集いとなった。目的は「召命のため。それでも、歩き続ける」ことである。

この召命巡礼ウォークは第2代委員長・故中島健二神父様の発案で始められた。第1回は大村の殉教地や巡礼地、教会を巡りながらの青年の召命の集いであった。その第1回の青年参加者の中に、現在司教秘書をしておられる中野健一郎神父様がおられた。あれから十数年、毎年その〝歩き〟は続けられた。昨年は公開ミサも中止の時期で巡礼ウォークも中止ということになっているが、実は密かに青年2人と司祭が5人集い、その〝歩き〟は続けられた。

今までに大村、西彼杵、東彼杵、佐世保・黒島、平戸・生月、島原、上五島、伊王島・長崎、太田尾・横瀬浦・次兵衛岩など、ほぼ長崎教区内は歩き、あと残すところは下五島だけである。これからも召命委員会は、召命のため、青年たちと語るため、共に〝歩き〟を続けていく。

教区召命委員　岡秋美（時津教会主任）

聖書講座とカトリック講座

今年度からオンライン受講も可

教区生涯養成委員会は、2021年度の「カトリック講座」と「聖書講座」をカトリックセンターの会場だけでなく、オンラインでの参加も可能としてスタートした。

初回は5月6日（木）の聖書講座。講師の高見三明大司教は「パウロの書簡概論」をテーマに、オンライン参加者と十数人の会場参加者に向け約1時間半にわたり熱く語った（写真）。

この2つの参加形式は、昨年の講座が新型コロナウイルスの影響ですべて中止になったことから、同委員会が「コロナを不安に思う方はもちろん、遠方にお住まいの方なども参加できるように」と対応を検討し準備したもの。しかし、5月の連休明けに長崎県における感染者が増加したため、5月20日（木）の聖書講座と22日（土）のカトリック講座は急きょ「延期」となった。

「今後の予定は決まり次第、教区ホームページなどを通してお知らせしていきますので、引き続きよろしくお願いいたします」（生涯養成委員会）

稲佐教会

初代聖堂の建立から70年超

最初の聖堂の建立から昨年4月で70年を迎えた稲佐教会（主任司祭・小瀬良明師）は現在、「神の愛が漂う教会づくり」を心がけ、取り組んでいる。

具体的には、さまざまな理由で教会に来ることができない人々のために小中学生がクリスマスや復活祭のカードを作成したり、16の地区が地区ごとに集会を開いて教会づくりに向けた意識を高める機会をつくったりなどしている。

同教会は1950年4月、中町小教区の巡回教会として聖堂を建立。付近在住の信徒たちが建築費を捻出し、労力奉仕をもって聖堂を完成させた。その後、62年に独立して稲佐小教区となり、71年には旧聖堂老朽化のため新聖堂を現在地に再建し、同年12月に献堂式を行った。

本来は昨年に70周年記念のお祝いをする予定だったが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

みことばにふれて181

シスター　北村央（ちか）

（純心聖母会、ローマ在住）

「取りなさい。これはわたしの体である」（マルコ14・22）

ローマに暮らしていて、ふと、キリストから遠ざかっている自分を感じてはっとすることがあります。

美しくて歴史のある教会をいつでも訪れることができるし、シスターがどこにでもいて、日本にいるときとはちがって注目されることもないのでのびのびと行動できるし、キリスト教的要素に常に包まれた最高の環境の中にいるのに、たとえば、大聖堂の小さなチャペルで聖体訪問をして、ご聖体の前にひざまずいたとき、ローマにいるからキリストに近いと思い込んでいたら実は逆に離れていた、という自分に気付かされるのです。それはたぶん、キリスト教がローマにおいて社会的に持つ権威の大きさや、さまざまなキリスト教建築物の壮大さに圧倒されているうちに、自分の中でそれらが重い意味をもって、本質の存在であるキリストを忘れてしまっているのだと思います。

カトリック聖歌集に『ひせきにこもりて』という歌があります。これはイタリアでもよく歌われていて、昨年亡くなった同じ修道院のシスターがすごく好きな歌であったこともあって、私のお気に入りの聖歌のひとつです。日本語で「くしきやすけさ」と歌う最後のフレーズは、イタリア語の歌詞では「あなただけが私の真の友」となっています。小教区のミサでこれを歌うと、うろおぼえの信者さんたちでも最後のこのフレーズだけは自信があるらしく急に歌声が大きくなったりして、一緒に歌っていてうれしくなります。皆と一緒に主の食卓をかこむことで、自分の中で重みをうしなって忘れかけていた「真の友」をもう一度見つけるというのは、本当に幸せな体験です。

何年か前に教皇様がミサの中でおっしゃった「ミサはスペッターコロではありません」ということばをよく思い出します。スペッターコロとは「見世物、ショー」という意味で、教皇様のおかげでこの単語を覚えられたのでとくに印象に残っています。どんなミサであっても、その中でキリストの体が割かれて、私たちがそれを食べるというすごいことが起きている。この、私たちの真の友の深い愛を、忘れても忘れても何度でも思い出す、そうやってキリスト者としてのいのちを生き抜きたいと思います。

お知らせ

〈教区典礼委員会から〉

教区典礼委員会は、2020年度延期していた同委員会主催の「朗読奉仕者養成講座Ⅱ」について、新型コロナウイルス感染拡大が続き、終息が見えない状況下での講座開催は難しいと判断し、21年度の同講座を「実施しない」と決定した。

短信

〈雲仙殉教祭が中止〉

長崎北地区のみの参加に制限し実施する予定だった5月16日の雲仙殉教祭は、新型コロナ感染拡大の状況を鑑み、昨年と同様に中止となった。

〈コロナ感染防止の対応〉

長崎教区は4月22日付で「当面の間、国内巡礼団ミサの申し込み受付を停止する」と発表した。

4月25日から東京、大阪、兵庫、京都の4都府県に緊急事態宣言が出され（当初5月11日までとされていたが5月31日まで）に延長。期間中、愛知、福岡、さらに北海道、岡山、広島なども対象地域に追加）、長崎県でも感染拡大が続き、教区は4月25日までとしていた「主日ミサの参加義務の免除」を5月30日までに延長（4月26日付）。5月5日、県内全域に特別警戒警報が出され、長崎3地区における5月9、16日の主日の公開ミサを中止（5月6日付）。また、5月8日に長崎県が独自の「緊急事態宣言」を発令。大浦天主堂では5月15日までとしていた関連施設の閉鎖を5月31日までに延長するとした（5月10日付）。その後、教区は長崎市内の感染状況を考慮し、長崎3地区の5月23、30日の主日の公開ミサも中止とした（5月17日付）。

ヨゼフ　大瀬良文男さん

（大瀬良直人師の父）

4月15日、逝去。84歳。通夜と葬儀は大浦教会で、新型コロナウイルス感染防止を考慮し、家族葬で営まれた。17日の葬儀ミサを主司式した子息の大瀬良直人師は、共に巡礼した海外でのエピソードを交えながら父親の人となりを紹介、とりわけ司祭としていつも感謝する心を忘れないようにとの故人の言葉を胸に刻んでいると話した。

小崎トマス　田川幸一修道士

（コンベンツアル聖フランシスコ修道会）

4月15日、逝去。93歳。1928年3月1日羅津（北朝鮮）生まれ。45年10月8日入会。68年3月27日終生誓願。小長井、聖母の騎士、東京・赤羽の各修道院に赴任。『カトリック・グラフ』編集長、聖母の騎士社編集長、椿原中学校校長、聖母の騎士小学校校長、聖コルベ記念館館長など歴任。2015年諫早市・聖フランシスコ園に入所した。

17歳の時、長崎で被爆し、修道士の道に入った。月刊『聖母の騎士』誌の執筆・編集に50年にわたり関わった。オラショの旅、日本二十六聖人無声映画の弁士も行った。自身の被爆経験を多くの若者に伝え、特徴ある語り口で身体が動く限り奉仕。被爆体験、聖コルベの生涯を自身の生き方と信仰生活に絡めた語りは聴く者の心に響いた。「みむねの・ままに」「生かされて今日も祈る」ことを最後まで全うした。小崎登明というペンネームで知られ、日記（ブログ）を通しても多くの人々と親しい交わりを深めた。

葬儀ミサは4月18日、本河内教会で行われた。

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院

●岩本明美様（福見）

故マリア岩本豊子様

●家田啓子様（黒崎）

故ミカエル家田輝夫様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

ペトロ岐部と187殉教者列福式記念墓地・高見三明大司教祝福
カトリック長崎中央墓園
所在地：長崎市田中町3450番地6～7　既存道名：中尾木場（木場峠付近）
開発総面積：2648.66㎡　付帯設備：照明、水道、管理棟
自然の中で故人と静かに語りあえる天の門
〈区画／規格：1.5m×2.0m　3.0㎡〉
墓碑1区画（青・桜・白）……182.5万円　※自由区画もあります。
（永代使用料50万、管理費10年6万円、消費税を含む）
〈納骨堂式〉
納骨堂式1基（3段）……78万円
（永代使用料20万、管理費10年3万円）消費税を含む
平成31年 バリアフリー仕様
駐車場 26台以上完備
トイレ・給水設備 完備
十字架墓碑 新規完備
ゴミステーション 完備
墓地管理委員会
〒850-0055 長崎市中町1-13 カトリック中町教会内 代表　主任司祭　葛嶋 秀信
TEL　095-823-2484　FAX　095-823-2486
問い合わせ
有限会社 長崎鉱栄商事（石材部　鉱栄石材）
〒850-0066 長崎市大浜650-111 TEL 095-834-4910 FAX 095-834-4912

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　大島和彦
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8488

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729